

手術データベースを用いた急性大動脈解離治療の現状に関する研究
研究分担者 本村 昇 東邦大学医療センター佐倉病院 教授

研究要旨：心臓大血管救急における外科治療の現状を把握するために日本心臓血管外科手術データベース(JCVSD)を用いて急性大動脈解離手術に関して2013年から6年間の年次推移を解析した。症例数は毎年増加し成績は確実に改善していた。

A. 研究目的

心臓大血管救急におけるICTを用いた医療情報連携の普及と広域救命救急医療体制確立の研究をすすめる上でその前提となる現状を把握するために急性大動脈解離手術の年次経過を含めた全国動向を知ることが目的とする。

B. 研究方法

日本心臓血管外科手術データベース(JCVSD)の2013年から2018年のデータを用いて急性大動脈解離手術の年別の症例数、病院死亡率、主要合併症発生率を抽出する。

(倫理面への配慮)

全国からの手術情報は個人が特定されない状態(「匿名」状態)で収集されておりデータ解析者を含めて匿名情報のみを扱っており、個人情報に関わる倫理面に配慮がなされている。

C. 研究結果

2013年から2018年の6年間で本邦での急性大動脈解離の手術件数は合計で31112件(全国で541施設)であった。年別の統計では図のごとく2013年では3889例が2018年には5900例と毎年増加傾向にあった。病院死亡率は11%から10%まで緩徐に改善している。

D. 考察

心臓大血管救急の代表疾患としての急性大動脈解離手術は年々増加しておりその成績は改善傾向にある。発症から診断まで、診断から手術までの時間を短くすることが救命率向上に直結する。ICTを用いた医療情報連携の普及と広域救命救急医療体制確立は急務であろう。

E. 結論

本邦の急性大動脈解離手術は年々増加しておりその成績は改善傾向にある。

F. 研究発表

- 論文発表
Okita Y, Kumamaru H, Motomura N, et al. Current status of open surgery for acute type A aortic dissection in Japan. J Thorac Cardiovasc Surg. 2020.
- 学会発表 省略

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

特許取得、実用新案登録、その他 なし。

